

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	龍谷大学短期大学部
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	社会福祉学科	夜・通信		2	34	36	7	
	こども教育学科	夜・通信			25	27	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表 https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/jitsumu/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	龍谷大学短期大学部
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_01.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	浄土真宗本願寺派宗会議員	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	僧侶	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	元企業経営者	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「企業運営の知見」に基づく組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	議員	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「文教政策等の諸施策」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	龍谷大学短期大学部
設置者名	学校法人龍谷大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学で開講されるすべての講義について、授業計画書(シラバス)を作成し、公表している。授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書(シラバス)の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書(シラバス)に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書(シラバス)の作成を行っている。</p> <p>また、授業計画書(シラバス)については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月 「シラバス作成の手引き」の提示 ・12月下旬 授業担当者へ授業計画書(シラバス)作成依頼 ・12月下旬～3月中旬 授業計画書(シラバス)の作成 ・3月中旬 授業計画書(シラバス)の公表 	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにて公表</p> <p>https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSS0.do</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての学科において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。</p> <p>1. 成績評価の方法</p> <p>成績評価には、主に次の4種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筆答試験による評価 ② レポート試験による評価 ③ 実技試験による評価 ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価 	

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は 0 点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。

段階評価と評点

S (90～100 点) A (80～89 点) B (70～79 点) C (60～69 点)

上記の段階評価以外に、実習科目は G (合格)・D (不合格) で評価する場合がある。単位認定された科目の場合は N (認定) となる。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。
- ⑥ 学業成績表は、第 1 学期（前期）分を 9 月中旬、第 2 学期（後期）分を 3 月下旬に配付する。

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

すべての学科において、成績評価の客観的な指標として GPA を採用している。GPA を活用することで、客観的な数値に基づいて学修成果を測定し、学生に適切な学修指導に役立てている。

各教科の評価点（100 点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出しており、算出方法については履修要項で示している。

評価点	グレイドポイント
100～90 点	4
89～80 点	3
79～70 点	2
69～60 点	1
59 点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

すべての学部の履修要項に記載
<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学短期大学部において、学科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針を次のとおり定めている。

「龍谷大学短期大学部の教育理念・目的を実現するために設置された学科は、広く社会に貢献できる教養教育と専門教育を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。」

この基本方針にもとづき、全学教学政策会議において、学長のリーダーシップのもと、卒業認定・学位授与の方針を定め、学生に保証する基本的な資質・能力や学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を定めて適切に実施している。

また、卒業認定・学位授与の方針は、履修要項に記載して、学生、教職員に周知するとともに大学ホームページを通じて、ステークホルダー等に幅広く公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	龍谷大学短期大学部
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
財産目録	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
事業報告書	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画)	対象年度:2019年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/bizplan/p_2019.html)	
中長期計画(名称:第5次長期計画)	対象年度:2010~2019年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/2020/)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページにて公表 公表先URL: https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:直近で行った「認証評価の結果」、「点検・評価報告書」及び「基礎データ」等を大学ホームページにて公表。 これらの内容を刊行物として取りまとめ、関係する機関等に送付。
公表先URL: https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/accreditation.html
タイトル:「開発(かいほつ) 第4部」(短期大学編)
入手方法:問合せによる対応
配付先:大阪・京都・滋賀に本部を置く短期大学、大学基準協会会員の短期大学等

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 : 短期大学部社会福祉学科
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen)
(概要) 【社会福祉学科の教育理念・目的】 福祉全般にわたる基礎的教養を修得するとともに、専門及び隣接領域の知識や実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen)
(概要) 【卒業認定・学位授与の方針 [短期大学士 (社会福祉学)]】 短期大学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生の一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。 社会福祉学科の学生に保証する基本的な資質・能力 ① <u>建学の精神の具現化</u> ○建学の精神の意義について理解している。 ② (③の基礎となる)「 <u>知識・技能</u> 」の修得 ○幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、その内容について説明できる。 ○個人の尊厳性、権利の普遍性、社会的互恵的連帯性、貧困と差別を生む社会構造をはじめとした社会福祉についての基礎的な知識を持っている。 ○自ら発見した課題を倫理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。 ○外国語による基本的なコミュニケーションができる。 ③ (④の基盤となる)「 <u>知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力</u> 」の発展・向上 ○幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。 ○身の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができる。 ○コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。 ○基本的な社会福祉の援助技術を身につけている。 ○社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできる。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身边から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つことができる。
- 障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。
3. 卒業認定を受けるためには、所定の68単位以上の単位数を必要とする。
4. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、担当教員によってその厳格な評価を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

短期大学部社会福祉学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」にもとづいて、以下のように教育課程を編成・展開し、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会福祉学科の教育内容

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、必修科目である「仏教の思想」（4単位）を開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- 幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」を14単位以上開講する。
- 社会福祉についての基礎的な知識を身につけるとともに、自ら発見した課題を倫理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようになるために、「学科専攻科目」の必修科目として、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目を20単位、関連領域も含めた社会福祉の専門科目を選択科目として34単位以上開講する。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2単位）教養英語ⅠⅡⅢⅣ（各1単位）等の科目を選択科目として開講する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として14単位以上開講する。
- 身の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、および社会福祉に関する演習および実習科目20単位を必修科目として開講する。
- 基本的な社会福祉の援助技術を身につけるために、「社会福祉援助技術総論」、演習や実習科目を必修科目として20単位開講する。その他、社会福祉の援助技術に関連する科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。
- 情報分析・発信のための基本的なスキルを身につけるために、選択科目として「情報処理基礎」(2単位)を開講する。また必修科目である演習、実習指導においてパソコンを用いてレポートを作成し、manaba courseから提出する等、コンピューターの基礎的なスキルを修得する。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目20単位を必修科目として開講する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身近から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つとともに、障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目を20単位を必修科目として開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(担当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

【入学者受入れの方針】

社会福祉学科では、講義や演習だけでなく、社会福祉施設等における実習教育など、実社会での実践的・体験的な学びを重視しています。そのような学びの中で、豊かな人間性、共生（ともいき）の精神、広い学識、進取の精神、福祉全般にわたる基礎的教養、専門的知識、実践的能力を身に付けた人の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 読み書きなどの基礎的な学力を確実に身につけた人
2. 行動力や主体的に学ぶ姿勢、社会性、多様な立場の人たちとコミュニケーションをとる力、体験をとおして多くのことを感じ取るための鋭い感性、そして、体験をとおして感じたことを整理する力、つまり思考力や文章力など、実践的・体験的な学習に必要な力をもった人
3. ディスカッションを行う能力や、ディスカッションをとおして多様な考え方があることを知り、多様な考え方から多様なことを柔軟に学び取る能力をもった人
4. 短期大学部の教育理念を深く理解し、明確な目的意識と勉学意欲をもった人

については、高等学校等の学習では、コミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語を中心として幅広く教科を勉強し、基礎的な学力を確実に身につけるとともに、入学までにさまざまな体験に積極的にチャレンジし、明確な目的意識を形成し、体験をとおしてさまざまなことを学び取ることに慣れておくことを望む。

学部等名：短期大学部こども教育学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【こども教育学科の教育理念・目的】

保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

(概要)

【卒業認定・学位授与の方針〔短期大学士（こども教育学）】

短期大学の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生の一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

こども教育学の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持っている。
- 保育・幼児教育について基礎的な知識を持っている。
- 自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。
- 基本的な保育・幼児教育の技術を身につけている。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができる。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。
- 保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができる。
- 自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。
- 基本的な保育・幼児教育の技術を身につけている。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができる。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。
- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 少子社会における保育や幼児教育について、探求心を持ちそれを具体的な課題にできる。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追求していく姿勢を持つことができる。
- 発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した

- 者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。
 3. 卒業時に必要な単位数は 68 単位とし、その履修方法は授業科目の区分により、学部共通科目の必修科目を 8 単位、選択科目を 4 単位以上、学科専攻科目の必修科目を 19 単位、選択科目を 37 単位以上とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

短期大学部こども教育学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」にもとづいて、以下のように教育課程を編成・展開し、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

こども教育学科の教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、「仏教の思想」（4 単位）を必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 ○幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目である「学部共通科目」を卒業要件単位として 12 単位以上開講する。

○保育・幼児教育についての基礎的な知識を身につけるために、「保育原理Ⅰ」（2 単位）、「教育原理・社会学」（2 単位）、「保育の心理学Ⅰ」（2 単位）、「社会福祉」（2 単位）、「子ども家庭福祉」（2 単位）、「社会的養護Ⅰ」（2 単位）、「保育内容総論」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1 単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。

○自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な保育・幼児教育の技術を身につけるために、「保育内容総論」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1 単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1 単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、保育・幼児教育の技術に関連する演習や実習科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

○外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2 単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2 単位）等の科目を選択科目として開講する。

○コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」（2 単位）を選択科目として複数クラス開講す

るとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。

③ (④の基盤となる) 「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目である「学部共通科目」を卒業要件単位として12単位以上開講する。
- 保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「保育原理Ⅰ」(2単位)、「教育原理・社会学」(2単位)、「保育の心理学Ⅰ」(2単位)、「社会福祉」(2単位)、「子ども家庭福祉」(2単位)、「社会的養護Ⅰ」(2単位)を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な保育・幼児教育の技術を身につけるために、「保育内容総論」(1単位)、「保育内容Ⅰ(健康)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(人間関係)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(環境)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(言葉)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(表現)」(1単位)、「保育内容Ⅱ(表現)」(1単位)を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、保育・幼児教育の技術に関連する演習や実習科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」(2単位)を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」(2単位)等の科目を選択科目として開講する。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」(2単位)を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度 (「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 少子社会における保育や幼児教育について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「保育原理Ⅰ」(2単位)、「教育原理・社会学」(2単位)、「保育の心理学Ⅰ」(2単位)、「社会福祉」(2単位)、「子ども家庭福祉」(2単位)、「社会的養護Ⅰ」(2単位)を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追究していく姿勢を持つとともに、発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「保育原理Ⅰ」(2単位)、「教育原理・社会学」(2単位)、「保育の心理学Ⅰ」(2単位)、「社会福祉」(2単位)、「子ども家庭福祉」(2単位)、「社会的養護Ⅰ」(2単位)、「保育内容総論」(1単位)、「保育内容Ⅰ(健康)」(1単位)、「保育内容Ⅰ

「人間関係」(1単位)、「保育内容Ⅰ(環境)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(言葉)」(1単位)、「保育内容Ⅰ(表現)」(1単位)、「保育内容Ⅱ(表現)」(1単位)を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。

こども教育学科の教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

こども教育学科の学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

【入学者受入れの方針】

次代における保育・幼児教育の専門職養成をめざす、こども教育学科のアドミッションポリシーは、その目的達成のために以下の3点の適性を重視して入学者の選抜を行う。

1. 教育の前提であり、保育・幼児教育の専門職となるための適性として、一定程度の国語力(読む・書く・話す等、言語的なコミュニケーションの力)を有する者であること。
2. 専門職となるための適性として、相応の生活経験(掃除、調理や洗濯等の家事遂行の経験等)を有する者であること。
3. 保育・幼児教育現場の特性に考慮し、一定程度の臨機応変な対応能力(即興で課題に取り組む意欲や機転、発想力等)を有する者であること。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法:大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
短期大学部社会福祉学科	—	5人	4人	0人	0人	1人	10人
短期大学部こども教育学科	—	4人	5人	4人	0人	0人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
4人			74人				78人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページで公表 https://www.ryukoku.ac.jp/who/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
短期大学部社会福祉学科	85人	90人	105.9%	170人	176人	103.5%	0人	0人
短期大学部こども教育学科	135人	134人	99.3%	270人	277人	103.0%	0人	0人
合計	220人	224人	101.8%	440人	453人	103.0%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
短期大学部社会福祉学科	91人 (100%)	37人 (40.6%)	40人 (44.0%)	14人 (15.4%)
短期大学部こども教育学科	134人 (100%)	18人 (13.4%)	114人 (85.1%)	2人 (1.5%)
合計	225人 (100%)	55人 (24.4%)	154人 (68.5%)	16人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学で開講されるすべての講義について、授業計画書（シラバス）を作成し、公表している。授業計画書（シラバス）の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書（シラバス）の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書（シラバス）に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書（シラバス）の作成を行っている。</p> <p>また、授業計画書（シラバス）については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月 「シラバス作成の手引き」の提示 ・ 12月下旬 授業担当者へ授業計画書（シラバス）作成依頼 ・ 12月下旬～3月中旬 授業計画書（シラバス）の作成 ・ 3月中旬 授業計画書（シラバス）の公表 <p>授業計画書の公表： 大学ホームページにて公表 https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSSO.do</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての学科において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。</p> <p>1. 成績評価の方法</p> <p>成績評価は、主に次の4種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筆答試験による評価 ② レポート試験による評価 ③ 実技試験による評価
--

- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価
2. 成績評価の基準
- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。
- 段階評価と評点
S (90～100点) A (80～89点) B (70～79点) C (60～69点)
- 上記の段階評価以外に、実習科目はG (合格)・D (不合格) で評価する場合がある。単位認定された科目の場合はN (認定) となる。
- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付する。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	社会福祉学科	68単位	有・無	160単位
	こども教育学科	68単位	有・無	160単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ポータルにて公表
<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000504501000.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

a. 2019 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学 学部	社会福祉 学科	796,000 円	200,000 円	114,900 円	施設費、実験実習料
	こども 教育学科	816,000 円	200,000 円	124,900 円	施設費、実験実習料

b. 2017～2018 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学 学部	社会福祉 学科	796,000 円	0 円	414,900 円	施設費、実験実習料
	こども 教育学科	816,000 円	0 円	424,900 円	施設費、実験実習料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生の修学に係る支援については、「スチューデントコモンズ」「グローバルコモンズ」「ナレッジコモンズ」の3つの機能別コモンズで構成する「龍谷大学ラーニングコモンズ」において展開している。

「スチューデントコモンズ」は、学生の主体的な知的活動を可視化することによって周辺にいる様々な学生の参加度も増幅させることを目的とした学修空間であり、アカデミックスキルの向上や修得のため、コモンズチューターによるチュータリングを実施しており、学修支援拠点（窓口）としての機能を担っている。

「グローバルコモンズ」は、自律型言語学習支援施設、留学・奨学金情報に関する資料、各種語学試験や語学学習に関する様々な教材を備え、国際交流を推進する様々なプログラムを展開すると共に、留学経験者で構成する学生スタッフによる留学アドバイスを行っている。

「ナレッジコモンズ」は、図書館の豊富な学術情報を活用しながら、学生が主体的に「調べ、考え、書き、作る」知の空間として展開している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学が定める「キャリア支援の方針」にもとづき、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的かつ体系的にキャリア支援を進めている。

「キャリア教育」では、福祉や保育・幼児教育の現場で活躍できる人材をめざし、福祉業界ガイダンスを社会福祉学科の学生たちが進路決定前に福祉業界への就職をイメージできるように、1年生を対象に開催するほか、卒業生による保育実技指導として、実習事前指導において、保育現場で活躍する卒業生を招き、保育者に求められる保育実技の指導を行っている。

「進路・就職支援」では、学生と企業との出会いの場を創出するため、大手企業や優良な中堅・中小企業と学生との接点を増やす取組を強化している。加えて、インターンシップへの対策、UJI ターン就職支援などを積極的に推進している。さらに学生個々の状況を踏まえた face to face の面談を重視し、きめ細かな支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターにおいて、診療所及びこころの相談室を開設し、学生及び教職員の身体的・精神的な健康の保持・増進にかかる業務を所管している。

診療所では、予防に重点を置いた保健管理として、学生・教職員を対象に健康診断を実施し、健康状態の把握と病気の早期発見・早期治療に繋がるよう取り組む。

相談室の運用においては、特に修学上の困難を抱える学生を支援するため、こころの相談室と関連部署との連携強化と教育的配慮のあり方について検討し支援策の改善・充実に努めるとともに、支援する学生スタッフの育成についても検討している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公表方法：大学ポータルにて公表

<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000504501000.html>